

明治有田偉人博覧会



幕末・明治という日本にとっての大変換期に、有田では多くの先人たちが活躍し、今の礎を築いています。

有田焼のデザインが革新され、華やかで精緻な作品が各地の万国博覧会で名声を得ました。そして、反射炉の壁のレンガにやきものの技術が生かされるなど、佐賀藩の、また日本の殖産興業や軍備に有田が一役買ったと言っても過言ではありません。また、それまで250年にわたり形を変えなかったやきものの生産現場の姿が大きく変容しました。呉須の化学合成や石膏型など西洋の最新技術を取り入れ、生産効率がはるかに上がったのです。

この時期の有田には、やきもの業界だけではなく、教育、政治、芸術などのあらゆる分野で忘れてはならない人々が沢山います。そんな「人」や「志」に学び、今に生かし、未来に引き継ぐ事業を有田町では行います。



1 町なかでの偉人の顕彰
[2018年6月から11月に開催]

有田出身もしくは有田町に関わりある、幕末・明治期に活躍した偉人を町内の各会場のショーウィンドウ等を使って顕彰します。



2 有田陶磁美術館の企画展
[2018年10月から11月に開催]

明治期に有田で作られた器がヨーロッパの人々の暮らしの中でどのように使われたのかを紹介する企画展です。



3 有田町歴史民俗資料館の企画展
[2018年10月から11月に開催]

幕末・明治期に有田焼が世界に飛躍するきっかけとなった万国博覧会に出品された陶磁器や図案などを展示します。



4 食に関する事業
[2018年11月頃開催予定]

幕末・明治の頃の国内各地との交流を食で表現する企画です。また、かつて有田にあった銘菓が装い新たに復活。それをお出する期間限定カフェも登場します。

主催／有田町明治維新150年事業実行委員会

(有田町まちづくり課内)

問い合わせ先／有田町明治維新150年事業実行委員会事務局 TEL.0955-46-2990 machidukuri@town.arita.lg.jp

幕末・明治期に活躍した 有田の偉人たち

この事業では、この方々以外にも
多くの偉人・偉業を分かりやすく紹介していきます。



田代紋左衛門 田代ノブ
(1817-1900) (?-1888)

幕末期、海外貿易を許可され、家業を拡大。明治9年、異人館を建設した助作は長男。妻ノブは手塚家から嫁ぎ家業を支えた。



久富与平昌起
(1832-1871)

幕末期、佐賀藩から海外貿易を許可された久富家を引き継いだ。不運にも志半ばで死去。存命ならば三菱を凌ぐ商社となつてであろうと大隈重信が語ったという。



ゴットフリート・ワグネル
(1831-1892)

ドイツ人化学者。明治3年、佐賀藩に雇われ有田へ来た。石炭窯やコバルト、西洋絵具の導入などを教授した。



8代深川栄左衛門
(1832-1889)

明治8年の合本組織香蘭社を設立して万博に出展し、貿易に力を入れた明治の開化期の有田皿山のリーダー。磁器製磁子の製造も始めた。



11代辻勝蔵
(1847-1929)

江戸時代から禁裏御用(宮内庁御用達)の名窯元で、明治8年の合本組織香蘭社創立者の一人。その後、精磁会社の設立にも加わる。



手塚亀之助 手塚国一
(1842-1900) (1866-1919)

有田焼商人として、明治8年の合本組織香蘭社創立者の一人。明治9年、米国フィラデルフィア万博に参加のため渡米。長男国一は明治19年に渡米し、森村組ニューヨーク支店に人社し活躍。有田で初めてアメリカ人女性と結婚した。



深海竹治
(1849-1897)

泉山の窯焼き・深海平左衛門の二男。兄の墨之助と共に、香蘭社、精磁会社の製品作りに腕を振るった。



川原忠次郎
(1849-1889)

酒請の川原家に生まれ、明治6年のウィーン万博に渡欧。伝習生の一人としてヨーロッパの産地で研修し、ギブス(石膏型)の手法を持ち帰る。



深川忠次
(1871-1934)

八代深川栄左衛門の二男。後、分家して現在の深川製磁を創業。シカゴ万博、パリ万博に渡航。



平林伊平
(1841-1893)

大樽の窯焼きで、洋食器や磁子の生産に取り組む。有田でいち早くちよんまげを切り落とした。明治22年初代有田町長に就任。



江越礼太
(1827-1892)

元小城藩士で、有田の教育者。明治14年、国内初の陶器工芸学校(勉修学舎)を設立し、子どもたちの実業教育に尽力した。



納富介次郎
(1844-1918)

元小城藩士で、父柴田花守に絵画を学び、号は介堂。明治6年のウィーン万博、同9年のフィラデルフィア万博に参加し、それら出品作の図案に深く関わった。石川・佐賀・香川などの工業学校長を歴任。



松尾寛三
(1859-1922)

明治26年、西松浦郡初の代議士となる。明治27年の佐賀県五二会創立にも関わった。財政界でも多くの会社の創立に関わり、明治41年には東京小石川に丘隅舎という西松浦郡出身者の学生寮開設にも尽力した。